

白馬だより…恵みの雪か、恨みの雪か

鈴木 均（泉州労山・大町労山）

とにかく降らない。昨年以上ではないかと思う。クリスマスも正月も周りが白くない。家の除雪機ですら出動することがほとんどない。

一昨年は、まさに恨みの雪。「ええ加減にしてくれ」と、空に向かって何度叫んだとか。バイトに出る朝、窓の外を見ては雪の多さに早めに車のエンジンを掛ける。車の屋根雪を下ろし、車の前を除雪。帰ってきては道路に車を置いて、庭を除雪して車を進入させて家に入る。家の屋根雪が落ちて窓より高く積み上がり、登ってはスコップで落とす。放っておいたら、雨戸のトタンが少し曲がってしまっていた。そんな毎日だった。

ところが昨年は、何年ぶりかの少雪。生活は楽だった。今シーズンは、このままでは、それ以上の少雪。スキー場はしたまで滑り下れない。「天よ、恵みの雪を我に与えよ・・・村民だれもが願っている。

それでも海外からのスキー客は増える一方だ。エコーランドを闊歩しているのは99%外国人であり、最近レンタルカーを運転している外国人も目立ってきた。咲花周辺の和田野地域はホテルも飲食店も日本人はまばらでホテルも飲食店も日本人はまばらで外国人街と化している。手放したペンションや民宿は次々に外国人の手に渡っている。

アジア系も増えてきているが、先日、サウジアラビアから、そしてインドからのスキー客がリフトに乗ってきた。いわゆる富裕層であろうが、当然スキーは初心者で、動作はぎこちないし危険きわまりない。インバウンドはどこまで行くのか。白馬村は急スピードで変わりつつある。

いつまで登るのかと周囲に言われながら、山にこだわる。念願の山道具入れ兼ミニ書斎を増築した。といっても6畳あまりの小部屋。断熱材を入れてるとはいえ、北側になっていることもあって気温は冬は2度くらい。夏には寝ることもできるようにタタミ1畳を高くして敷いた。裏側になるこの玄関看板は手作り。鹿の角は2年前の冬に八ッ岳東面バリエーション途中の地獄谷で死んだシカから鋸で切ってきたものだ。

今年も安全登山を願う。

